

国際 国内 政治・経済 環境 気候変動 都市開発 スマートシティ 建設 上下水道 物流 テクノロジー 通信 先端技術 オピニオン

## ロシア侵略容認する形の「停戦」受け入れてならない

## 拓殖大学教授 佐藤丙午氏

ウクライナとロシアの停戦交渉は一定の譲歩はあったものの、依然として不透明なままだ。むしろ戦況は民間人を巻き込み、深刻な度合いを深めている。戦闘が続けば続くほど、子どもを含めて民間人に多くの犠牲が出る。早期の「停戦」を望む声は、ウクライナ、ロシア国内だけでなく、国際社会からも声高に出ているが、ロシアの侵略を容認するような形の停戦は、ウクライナも国際社会も受け入れられないだろう。

これまでロシア軍はミサイルによる無差別攻撃などで攻撃の対象にはならない病院や幼稚園などの建物を次々と破壊するなどエスカレートさせている。しかも今後の状況次第では「化学兵器」、そして、その先に「核兵器」使用という極めて危険な兆候も見られる。そこで安全保障や軍縮核不拡散、防衛産業の第一人者である拓殖大学の佐藤丙午教授に登場してもらい、ウクライナ、ロシア両軍の戦闘状況や、兆候がみられる化学兵器や核兵器の使用について分析してもらった。インタビューはオンラインで行った。



——ロシア・ウクライナ戦況についてお聞きしますが、今の戦況、どう見えていますか。

佐藤 現時点でロシア軍は苦しんでいると思う。2月24日、ウクライナに侵攻した時は、首都

◇ ◇ ◇  
キーウ(キエフ)をすぐにでも陥落させることができると思っていたようだが、補給の問題やウクライナ側の抵抗などもあって停滞しており、なかなか攻めきれないようにも思える。ただ、ウクライナ北部と南部、東部とは戦況が違っているの

◇  
で、明確に戦況を断定的に判断できないが、首都キーウへの侵攻は停滞し、ウクライナ軍によって押し戻されている。

——ロシアは軍事大国というイメージがあり、ウクライナを短期戦で制圧するのかと思ってまし

たが、1カ月以上経っても、キーウを制圧できないのはなぜだと思いますか。

佐藤 当初は「衝撃と恐怖」作戦を模した攻撃で、侵攻直後にもキーウを制圧できると思っていたようだが、実際に侵攻すると、道路を進むしか方法がなく、それに補給などが滞ってしまい、なかなか前には進めなかった。米国は地上戦に入る前は、かならず大規模な空爆をするが、それを実施しなかった。それに欧米諸国や日本に支援されたウクライナ軍の反撃は強力であり、押し戻された格好で、ずるずると後退するしかなかった。

——ロシア軍は「キンジール」と呼ばれる極超音波ミサイルなどを使用して、病院や学校、ショッピングセンター、民間住宅などを無差別攻撃しているようですが、これはある意味、ロシア軍が地上戦で攻めきれない、停滞していることを意味していると思います。どう見えますか。

佐藤 キンジールはプーチン大統領が年次教書演説で挙げた6つの将来戦略の核兵器の1つであり、いわばロシアにとって「虎の子」といえる存在。その虎の子を、防空システムが充実しているとは言い難いウクライナへの攻撃に使用する、いわば「牛刀をもって鶏を割く」大げさな手段としか言いようのない使い方は首をかしげたくな

るところだ。多分キンジールを使用したのは、心理的な効果を狙ったものではないか。

## 化学兵器の使用は低い

——キーウ近郊で「白リン弾」が使われたとの報道がありますが、ロシア軍は今後、化学兵器を使うということは考えられますか。

佐藤 化学兵器を使うことになれば、レッドラインを越えることになり、もし化学兵器を使った場合、NATOや米国は軍事的対応を一段階上げるのではないかと。ただ、今のロシア軍の戦況を見ると、化学兵器を使うことは低いと思っている。しかし、NATOや米国がウクライナ軍を支援し、戦況が不利になって、ロシア内に侵入するなどの局面、あるいは撤退作戦がうまくいかず、ウクライナ側にロシア軍部隊が包囲されるような場合、局面打開策として化学兵器を使うと思うが、現時点では使わないと思っている。単なる脅しだと思っている。

——ロシア軍が戦況的に不利になり、「核」を使用するという選択肢はあると思いますか。

佐藤 焦土作戦といって、農地を小規模な核を使って2度と使えないようにすることはあり得るかもしれない。焦土作戦は、防御側が攻撃側に奪われる地域の利用価値のある建物・施設や食

料を使用不能にし、その地の生活に不可欠なインフラの利用価値をなくして利便性を残さない戦術だ。ロシア軍が退却して、再度、侵攻するときに、ウクライナがそれらの農地や施設が使用できないようにしておく戦術だ。鉄道や補給施設を破壊する場合も焦土作戦に含まれるが、ロシアがどう面子を保って撤退するのかが一番の焦点になっている。

——この戦争、どういう形で、いつ頃集結すると思いますか。また、今後、どのようなシナリオが考えられますか。

佐藤 ロシアとウクライナがどのようにして停戦するのか。それが一番の問題だが、先ほど言ったように、ロシアは面子を保って撤退するかどうかが焦点だろうと思う。ロシア軍は侵攻の失敗をロシア国内で隠すために、掌握したウクライナ東部のドンバス地域で親ロシア派分離主義勢力が掌握した「ルガンスク人民共和国」(自称)で、ロシア編入への是非を問う住民投票を行おうとしている。ロシア軍は占領した地域をウクライナ本国から切り離し、国家が分かれる朝鮮半島のような分断を画策しているとの見方もされている  
(聞き手・千原直行)



●●● 外務省はウクライナの首都「キエフ」から「キーウ」に名称を変更した。キエフはロシア語の発音に由来。キーウはウクライナ語の発音に近い。このため自民党などからロシアへの抗議の意味を込めてキーウとするよう求める声が上がっていた。政府も各省庁で作成する文書などでの表記を順次「キーウ」に統一する。第2の都市「ハリコフ」も「ハルキフ」、南部の「オデッサ」も「オデーサ」に変更された。